

第3章 国際社会に生きる日本人の自覚

2 仏教と日本人の思想形成

1 仏教の受容（教科書 P.81～83）

●仏教の伝来と奈良仏教 [p.81]

歴史—6世紀, 百済より仏教伝来

↓

① [] = 仏教を普遍的な真理ととらえ興隆に努める
「世間は [], 唯 [] のみ是れ真」

a 「憲法十七条」→人間関係における「[]」の必要性を説く
「ともに [] のみ」

b 『[]』(『法華経』『勝鬘経』『維摩経』の注釈書)
→在家仏教の意義を広める

↓

②奈良時代の仏教=国家のあり方と密接に結びつく

→ [] を目的とした国家仏教へ

a 聖武天皇→国分寺造営・東大寺大仏の建立

↓

b [] →民間仏教の信仰に貢献

c [] →唐の高僧, 来日して戒壇を築く

↓

●平安仏教の展開 [p.82]

奈良～平安初期= [] としての仏教

↓

最澄(伝教大師)・空海(弘法大師)らにより, 大陸から学んだ仏教が広められる

① [] →比叡山延暦寺を拠点に [] 宗を広める

a 『[]』を根本精神

→すべて生あるものは仏となる可能性を備えている

「一切衆生に悉く [] あり」

→法華〔 〕思想

b 天台宗の開祖

→鎌倉新仏教の母体

=密教, 禅, 浄土信仰につながる教えを含む

②〔 〕→高野山金剛峯寺を拠点に〔 〕宗を広める

a 〔 〕の働き=宇宙のあらゆる事象の根底

b 真言〔 〕の教える三密の修行を实践

→〔 〕=この身のままに大日如来の働きと一体化する

↑

自然と一体化しようとする日本古来の宗教的心情

↓

③〔 〕=神と仏を融合させる考え方が広まる

→本地垂迹説 (〔 〕はもと〔 〕・菩薩)